

2010 年度 ふじのめ学級実習生からのメッセージ
＜2011 年にふじのめ学級に実習に行く後輩に向けて事前準備や心構え等のアドバイス＞

①体調管理や時間の管理も実習では大切

○必ず持っていかなければならない物を忘れないようにすることや時間に余裕をもって行動することなど基本的なこと守れるように努力する。

広範は体調を崩す実習生が多かったため、実習中は、気を緩めずに体調管理を行う。睡眠がとれなければ、栄養をたくさん摂ることで補うしかないと思う。

○実習が始まってしまうと毎日、体力的にも厳しくなるので何にしても早め早めに準備をしてどんどん進めていくこと、が大切だと思います。

又、体調管理を意識的に気を付けて下さい。 提出物も期限内に提出できるように頑張ってください。

○運動会練習やレインボーピック練習などで直射日光を何時間も浴びて練習しますので、帽子がないと辛いです。

○実習手帳の書ける部分は、実習が始まる前に書いておいた方がいいです。時間のあるときに、後回しにしないでコツコツとやっておいた方が良いでしょう。

あと、睡眠時間はちゃんと確保した方が良いでしょう。

②教師として行動しよう

○ 事前に教育フィールド研究などでふじのめ学級に行って、子どもたちや授業の様子を見ておくのも良いかと思う。

また、子どもたちは、自分たちのことを先生だと思っている。ため、身だしなみや言葉遣いには十分に気を付け、指導者であるということを忘れずに臨むべきである。

○ふじのめ学級付近の公園の名前を知っておくと、子どもと話す時に便利です。

毎日反省会があるので、積極的に発言できるようになる。

子どもの前で若者言葉をうっかり使わないように、事前に直しておく。

(まじ、めっちゃとか・・・)

○ 3 週間の短い期間での実習

忙しい中受け入れて下さる学校側も、私たちに良い教師になってもらいたいという気持ちで指導して下さるので、服装や言葉づかい、教師の「指導者」という立場を自覚して最低限の礼儀は守って実習にのぞんだほうが良い。指導や助言は積極的に受け入れよう。

実習生同士が協力し合う場面が多かったので、みんなで励まし合いながら実習を乗り切ってほしい。

○あれこれ考えるよりも、まずはやってみれば良いと思います。それが正しくても間違っていたりも必ず次に生かすことができるはずです。あとは先生方や保護者の方なども含め関わる人には挨拶をしっかりと感謝の気持ちを忘れずに。

○子どもは本当に素直です。素直な故に大人の発言をととても素直に、そのままに受け止めてしまう事が多いです。なので安易に比喻表現を使ったり、難しい表現を使っても子ども達に伝えたいことをしっかりと伝えられません。教師には発言の一言ひとことに責任が付きまとうものです。

③失敗から学ぶ姿勢が大切

○私が実習中に言われたことは、子どもたちへの対応の仕方などに困ったときに、「失敗をおそれず」、考えるよりもまずは行動してみよう」ということでした。せっかくの実習なので、思ったことがあれば、どんどん行動して、たくさんのことを学べる実習にすべきだと思います。

○観察記録について、観察の課題にのみ関心を向けるのではなく、「児童生徒の徳世知についても目を向けてみると観察記録も結果的に書きやすくなると思うし、日常的な児童・生徒との関わりや授業作りにも役立つと思う。

○来年もし参加するとしたら、あれこれ悩むよりも様々な場面で明るく児童たちに接して話をたくさんしてみようと思う。そのために引っ込み思案なところを意識的に改善する努力が必要ではないかと思う。

④子どもと関わって一人ひとりの特徴をつかむ

○日常生活や授業で指導したり、教えたりするということは生徒一人一人の性格や特徴、得意不得意をしっかり理解していないと成り立たないと思いますので、教師として積極的に関わることを心がけるようにすると思います。あとは実習までに、しっかり自分と向き合い、学びたいことは何か、成長したいことは何かなど考えたり見直しをした方がいいと思います。

○「障がい」という言葉を聞けば「あれが出来ない、これが出来ない」というマイナスなイメージを持ってしまいがちですが、実際に実習を行い児童、生徒と、きっと直接児童・生徒に関わってみないと何もわからないと思います。逆に言えば、たくさん一生懸命に関われば関わるほど、たくさんのことを学べつと思います。

事前に準備することは、思いつきません。とりあえずいかに実習に意図的に心構えるかどうかだと思うので、頑張ってください。

○観察実習中は「外から学校教育を見る」のではなく、とにかく積極的に子どもたちに関わって、どんどん授業にも入って行って下さい。どれだけ関われるかで、その後自分が授業をした時に子どもたちが参加してくるかどうか決まってくると思います。(私は反省しています)

授業づくりは、頭で考えるだけでなく、とにかく動くことが大切だと思います。実際にイスと机を並べて、自分で座ってみて、子どもたちの見え方を感じて下さい。

実習はとても忙しいけれど、絶対楽しいです。頑張ってください。

⑤授業づくりの大変さと仲間と学ぶ楽しさ

○特別支援教育についての知識も必要だが、どの場で起こることにどう対応していくかを考える力がとても重要だと思う。予想もしていないことが授業中や日常生活で頻繁に起こるので子ども達とどう接するかという対応力がある。子どもの前では大学生ではなく教師なので、教師らしい振る舞いや態度をしなくてはならない。時宗が始まる前は緊張すると思うが、先生も生徒も元気で優しいので安心して下さい。

実習最後の一週間は帰れないし、寝れないので健康には気を付けてください。

○指導案を書く際に、学習指導要領がとても参考になったし、これに沿った指導内容を考えていかなければならないため、学習指導要領は一通り読んでおくとよい。

○授業を実際にやってみて、板書が苦手だと気がつきました。来年は板書の練習をして実習に臨みたい。

○仲間たちと一緒に授業作りをして、仲間の授業を見ると、自分の悪い所ばかりが目立ち、比較ばかりしてしまって辛かった。でも、仲間がいたから、自分だったら思いつかないアイデアがあって助かったことも多かった。だから、自分のダメな所とかを目のあたりにすることをおそれないで積極的にアドバイスしあったらいいと思う。自分の授業のダメな所、改善点を聞いた方が、良い点を聞くより心のダメージは大きいけれど絶対に参考になる。